



①事業目的

福島県新地町において、次世代の学びの基盤創出、地域活動の実践型演習、大学の知の集積と地域への還元、それらを統合した持続可能まちづくりを、現地拠点UDCLしちを活用して公・民・学共創により実践する。復興の状況や内外の社会情勢の変化に順応し、創造的にまちづくりに貢献する復興知人材を育成する

②取組概要

1. 次世代の学びの基盤創出

地域の関係組織や住民とともに、新地町の次世代になう子どもたちのための学びの基盤を創出し、新地町の未来や将来像について考え、理解し、実践する場を醸成する

2. 地域活動の実践型演習

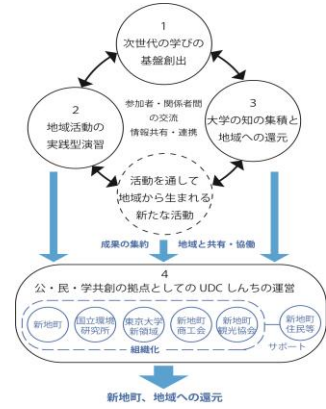
地域住民と大学（院）生が地域課題解決にともに取り組み、そこで学んだ経験をもとに、持続可能なまちづくりを内地的に行う担い手へと成長するきっかけを提供する

3. 大学の知の集積と地域への還元

研究教育成果を現地拠点UDCLしちで集積し、地域住民に発信・公開することにより、地域の教育や活性化に資する大学の知として、地域に社会還元する

4. 公・民・学共創の拠点としてのUDCLしちの運営

現地活動や交流事業をコーディネートするとともに、地域住民の参加により地域のまちづくりの担い手の創出に向けた活動を行う



③活動概要と成果

取組①

- 新地町立小学校交流事業**：大学（院）生と子供たちの交流をとおり、**子どもたちが大学という存在を身近に感じ、興味を持つきっかけづくりを支援**（2023～）
- 尚英中学校環境・エネルギー学習プログラム**：大学等の研究を活用した、地域エネルギーや環境教育に関する授業を中学1年生に実施。**科学への興味関心の向上と学習への動機づけを支援**（2019～）
- 尚英未来エネルギー倶楽部**：上記の学習プログラムの継続した学びの場として、環境やエネルギーに関する高校レベルの授業を中学3年生の希望者に実施(2023～)
- 新地高校特別授業**：外部講師によるまちづくりをテーマとした特別授業を実施。閉校にともない特別授業は終了したが、**生徒の積極性や外界への興味関心の向上等を支援**（2022～2024）

取組②

- 地域活動デザインスタジオ**：地域住民との協働による課題解決のための実践的活動をテーマとする。2022年度以降、**6つの提案を地域住民とともに町内で具体化。地域の担い手としての学生と住民の育成に貢献**(2021～)
- 情報環境デザインスタジオ**：「忘却に抗う」をテーマに、浪江町を対象に被災地の現状を伝えるメディアを製作。**成果はHP等で発信しており、国際的な評価を年々高めている**（2022～）
- 関係人口創出プログラム**：サイクルツーリズムや地域資源を活用した、新地町の魅力発信に取組む。**新地サイクルマップの改訂を担当したほか、2023年度は新地町の観光振興をテーマとする卒業論文3本を町役場等に寄贈**（2019～）

取組③

- 環境システム学輪講**：町内設置の気象計測器（4か所）のデータ等を分析し、地域のエネルギー需要評価、再生可能エネルギーや省エネルギーの導入可能量推測を実施。防災緑地公園キャンプ場の立地選定に上記データが活用されるなど、**新地町のまちづくりに研究成果を還元**（2021～）
- 環境システム学実地演習**：先行研究や事例調査等を通して、エネルギー技術の望ましい導入の仕組みや導入方法を探索し、地域のエネルギー施策を立案(2019～)

地域住民による新たな地域活動

- こども・おとな地域食堂あんしんち**：「食を通して集まる」多世代交流拠点の創造を目指す。**地域食堂をこれまでに2回開催し、それぞれ70名以上の参加者を集める**
- 第三の居場所 commons しんち**：子どもたちが個性を伸ばし、自己肯定感と社会性を育むことのできる居場所の創出が目標。不登校の中高生を対象とし、2024年度内の開所を予定
- いちじく六次産業化**：新地町の特産品のいちじくを活用し、**新地町JA婦人部と郡山女子大学郡司研究室が協働し商品開発を行う**。多世代交流をとおりした地域活性化、シニア世代の生きがい創出に貢献

取組④

- 2024年2月に**任意団体としてUDCLしちが組織化され、新たにセンター長が就任**。自走化に向けた組織基盤の強化に着手
- 大学（院）の現地演習で新地町を訪問した学生たちが、**関係人口として成長し、地域内外で様々な活動を展開**
- 地域住民主体の活動がUDCLしちを活用して展開されており、**地域の担い手を育成するための基盤整備が進んでいる**
- まちづくり拠点としてのUDCLしちの働きが認められ、2024年8月に新地ライオンズクラブより活動資金として寄付金を受領**